

2025年度

授 業 計 画

1 学年

(歯科衛生士科Ⅱ部)



日本ウェルネス歯科衛生専門学校

目 次

生物学	1
化学	2
臨床心理学	3
歯科英語	4
コミュニケーション論	5
解剖学	6
栄養代謝学	7
生理学	8
口腔生理学	9
口腔解剖学	10
組織・発生学	11
病理学・口腔病理学	12
微生物学	13
口腔微生物学	14
薬理学	15
口腔衛生学Ⅰ	16
口腔衛生学Ⅱ	17
衛生学・公衆衛生学	18
歯科衛生士概論	19
歯科臨床概論	20
保存修復学	21
歯科予防処置Ⅰ	22
歯科予防処置Ⅱ	23
歯科保健指導Ⅰ	24
歯科診療補助Ⅰ	25
歯科診療補助Ⅱ	26
歯科材料学Ⅰ	27
総合講座Ⅰ	28

■科 目			生物学		■講師名		藤田 智史・小林 理美	
Ⅱ部 1 学年		前期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要								
生物学に関する知識を得ることで、解剖学、生理学、生化学、免疫学の土台作りをする。また、昨今明らかになってきた生命科学の新しい概念や技術について知り、臨床歯科医学への足掛かりとする。								
■授業目的、到達目標								
生命の単位となる細胞を作る物質、細胞小器官、細胞の活動を説明できる。細胞の働きの例として骨格筋の収縮メカニズムを説明できる。細胞分裂について説明できる。組織、器官、器官系について説明できる。生殖、遺伝、遺伝子発現、発生について説明できる。感覚器について説明できる。ホメオスタシス、自律神経、ホルモンについて説明できる。生体防御の基本的な概念を説明できる。								
■授業方法								
講義資料を投影して講義を行う。								
■教科書（書籍名・出版社）								
歯科衛生学シリーズ／生物学 医歯薬出版								
■成績評価・講義上の注意								
出席と講義後課題の提出状況（20%）及び定期試験（80%）による。								
■実務経験								
藤田智史：薬理学、神経科学を中心とした研究経験に基づいて、教科書に書かれている内容を、その背景から解説していきます。また、歯学部を卒業後に得た臨床経験を生かし、生物学で学ぶ知識がどのように引き続き学修していく基礎医学や臨床医学に反映されるかといった視点とともに講義をしていきます。								
小林理美：歯学部卒業後の臨床研修、薬理学、神経科学を中心とした研究経験に基づいて、引き続き学んでいく基礎医学や臨床医学と繋がるよう生物学の授業をします。								
■授業計画（講義の流れ）								
1	細胞の構造と細胞小器官の役割、細胞膜の役割について理解する。細胞の活動について理解する。							
2	骨格筋の収縮メカニズム、膜タンパク質、分泌について理解する。細胞分裂について理解する。							
3	組織の種類について理解する。器官からなる主な器官系について理解する。							
4	有性生殖と減数分裂について理解する。遺伝の基本的な法則について理解する。							
5	遺伝子の発現について理解する。発生について理解する。							
6	感覚器、興奮の伝導と伝達について理解する。中枢神経と末梢神経について理解する。							
7	内部環境を保つ仕組みに関わるホルモンについて理解する。生体防御について理解する。							
8	定期試験、解答解説							

■科 目		化学	■講師名		平石 奈月
Ⅱ部1学年		中期	8コマ（1コマ90分授業）	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要					
物質の種類や基本的な性質を知り、酸化還元などの化学反応を理解する。栄養代謝学の習得にも役立つ基礎的な知識を習得する。					
■授業目的、到達目標					
化学の基本的事項を理解し、栄養代謝学の履修に向けた基礎知識の形成を目指す。					
■授業方法					
講義形式					
■教科書（書籍名・出版社）					
なし					
■成績評価・講義上の注意					
小テストおよび学期末試験による総合評価					
■実務経験					
管理栄養士としての国内外の食品規制に関する調査・研究、ならびに糖尿病療養指導士としての栄養指導による知識および経験に基づき、わかりやすく講義する。					
■授業計画（講義の流れ）					
1	物質とは何だろう ①物質の分類、②物質の構造、③原子の電子配置、⑥化学結合				
2	物質が水に溶けるとは ①水溶液の濃さの表し方、②-4 浸透圧、④酸とアルカリの水溶液				
3	酸化とは、還元とは ①酸化と還元、②金属のイオン化傾向				
4	化学反応では原子の組換えが起こっている ①化学反応の速さを決めているもの、②化学平衡って何だろう				
5	有機化合物とは何だろう ①有機化合物の成り立ち、②有機化合物に名前をつける、⑤代表的な化合物と性質				
6	ヒトをつくっているものは何だろう ①水はいたるところに存在する、②ヒトを形づくる元素、③糖質				
7	ヒトをつくっているものは何だろう ④アミノ酸とタンパク質、⑤脂質、⑥核酸と核酸関連物質				
8	定期試験、解答解説				

<div>■科 目</div> <div>臨床心理学</div>	<div>■講師名</div> <div>近藤 卓</div>
<div>Ⅱ部 1 学年</div> <div>中期</div> <div>8 コマ (1 コマ 90 分授業)</div>	<div>総時間 15 時間</div> <div>講義 1 単位</div>
<div>■学修概要</div> <p>臨床心理学の基本的な考え方と基礎的な知識を学ぶことを通して、自己理解を深めつつ、人と人の関係に対する理解を深める。患者の立場を理解して信頼関係を構築し、歯科衛生士として職務を果たしていくために役立つ、臨床心理学の理論と方法について理解を深める。</p>	
<div>■授業目的、到達目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な対人関係を構築するために、臨床心理学の基礎的な考え方を理解できる。 ・人間の行動を心理学的に考察し、問題行動への対応について理解できる。 ・人と人のコミュニケーションの多様性を理解し、現実の場面での人の心の動きについて理解できる。 	
<div>■授業方法</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書、視聴覚教材及びパワーポイントを用いた解説 2. 質疑応答によって理解を深め、視野を広げる対話的・主体的・能動的な学習 	
<div>■教科書（書籍名・出版社）</div> <p>近藤卓著『心理学から学ぶ健康～こころとからだと人間関係』金子書房</p>	
<div>■成績評価・講義上の注意</div> <p>評価：定期試験および授業態度（リアクションペーパーや授業への参加度）で総合的に評価する。</p> <p>注意点：受動的な受講に留まらず、自分の経験や実践に結び付けて考える能動的態度が望まれる。</p>	
<div>■実務経験</div> <p>資格・学位；臨床心理士。博士（学術）。</p> <p>所属学会；日本学校メンタルヘルス学会・理事、日本いのちの教育学会・理事長。</p> <p>経歴；東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学、高等学校教諭、中学校高等学校カウンセラー、ロンドン大学医学部研究員、東海大学教授、山陽学園大学教授などを経て、現在日本ウェルネススポーツ大学教授。</p>	
<div>■授業計画（講義の流れ）</div>	
1	自己紹介と授業の進め方（臨床心理学を学ぶための基本的な考え方）
2	健康とコミュニケーション（心を豊かに育てる人間関係のあり方）第 1 章 p1-7
3	他の人とコミュニケーションを取ろう（人間関係の基本形、自分を大切に思う気持ち）第 3 章 p20-37
4	自分を大切にしよう（すごい自分とありのままの自分）第 4 章 p38-54
5	生活の中でストレスと向き合うために（ストレス対処と心的外傷後成長の考え方）第 5 章 p55-78
6	健やかな生活に心理学を生かすには（カウンセリングの考え方、意味と役割）第 6 章 p79-89
7	健やかな生活に心理学を生かすには（自分の心をどう理解するか）第 6 章 p89-98
8	定期試験、解答解説

■科 目		歯科英語		■講師名		加藤有美 Joseph Ribas	
Ⅱ部 1 学年		後期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
<p>■学修概要</p> <p>診療や受付にて使用されると思われる項目に触れていく予定である。</p> <p>また外国人講師による特別授業を数回設けた。</p> <p>教科書はガイドとして使用する。</p>							
<p>■授業目的、到達目標</p> <p>歯科英語の習得。英語による受付対応ができるようになることを目的とする。</p>							
<p>■授業方法</p> <p>スライド、板書など</p> <p>ネイティブとの会話、ヒアリング練習。(特別授業)</p>							
<p>■教科書(書籍名・著者・出版社)</p> <p>歯科英語の練習帳 萌文書林</p>							
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>定期テスト、出席など総合的に判断をする。授業内容の変更もある。</p> <p>特別講義には出席をすること。特別講義の日程は変更などがありうる</p>							
<p>■実務経験</p> <p>本学にて矯正学を教えています。</p> <p>大学所属時代に定期的に英語論文に触れてきており、アメリカでも研修などを経験している。</p>							
■授業計画(講義の流れ)							
1	筆記体、イギリス英語とアメリカ英語、歯科英単語						
2	歯科英単語など						
3	歯科英単語など						
4	歯科英単語など						
5	Lesson 3						
6	特別授業						
7	特別授業						
8	特別授業						
9	特別授業						
10	特別授業						
11	Lesson5						
12	Lesson6						
13	特別授業						
14	特別授業						
15	定期試験、解答解説						

■科 目 コミュニケーション論			■講師名 利重牧子・猪島恵美子	
I 部 1 学年	通年	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
猪島恵美子 講師		7 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 14 時間	
■学修概要 学校生活における学生間および教職員とのコミュニケーションに始まり、臨床実習の場までコミュニケーション力が求められる機会は多い。歯科衛生士となった後、適切な患者対応を行うためにも必要な能力である。話すことにだけに囚われず、相手が話しやすくなる態度や姿勢を学んでいく。				
■授業目的、到達目標 医療従事者として望ましい人間関係を築くことを目標に、自分や相手の気持ちを考え理解するコミュニケーションのとり方を考える。				
■授業方法 講義・グループワークなど				
■教科書（書籍名・出版社） 使用しない。場合によっては指示を出す。				
■成績評価・講義上の注意 課題の提出、出席率、授業態度等の総合評価				
■実務経験 一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当を行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、歯科衛生教育学会、歯科衛生学会に所属している。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	オリエンテーション（コミュニケーション論とは・自己紹介等）			
2	医療従事者としての身だしなみ（頭髪、爪、着衣）			
3	チームワークについて			
4	歯科衛生士に必要なコミュニケーション①			
5	歯科衛生士に必要なコミュニケーション②			
6	歯科衛生士の倫理綱領について①			
7	歯科衛生士の倫理綱領について②			

■科 目		コミュニケーション論		■講師名		利重牧子・猪島恵美子	
I 部 1 学年		通年	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間		講義 2 単位	
利重 牧子 講師			8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 16 時間			
■学修概要							
①コミュニケーションとは何かを理解する。							
②仕事に就いたときに、人間関係などの行き違いを小さくする。自分を知り、立場の違う人との円滑なコミュニケーションのコツを掴む。							
③仕事においてメンタル面で挫折しないように心構えや対策を伝える。							
■授業目的、到達目標							
①自身のコミュニケーション力の程度を理解し、「強みと弱み」の理解を深める。「強み」は自信に繋がることを知り、「弱み」は改善方法を知る。							
②受講して良かったと思えるものを残す。							
■授業方法							
講義とロールプレイなどが中心となる。他者理解を深めるために相互コメントも取り入れる。							
■教科書（書籍名・出版社）新人の「？」を解決するビジネスマナーQ&A 100 同文館出版 利重牧子							
■成績評価・講義上の注意							
記述式を含めた筆記試験。その上で受講態度を重んじる。							
■実務経験							
・コミュニケーション・マナー研修講師として大手企業の新入社員研修、役員研修、部下指導講座や就職対策セミナーなどを実施。							
・産業カウンセラーとして職場のカウンセリングを行う。							
・アンガーマネジメントジャパンの実践リーダーとして研修を実施。							
・「JAICO 認定心の健康アドバイザー」としてストレスマネジメント研修やハラスメント研修を実施。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	コミュニケーションの定義 ・バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション ・豊かなコミュニケーション・マナーの重要性						
2	バーバルコミュニケーション ・敬語・積極的傾聴						
3	テキストコミュニケーションと対面コミュニケーションの違い ・報連相（口頭・メール）						
4	ビジネスメール ・電話応対の基本と応用						
5	電話応対 ・基本復習と応用（職場事例）						
6	アサーティブコミュニケーション ・自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしたい伝え方を学ぶ						
7	ストレスマネジメント						
8	定期試験と解説						

■科 目		解剖学		■講師名		中山 光子	
Ⅱ部 1 学年		前期	15 コマ（1 コマ 90 分授業）	総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要							
歯科衛生活動に必要な不可欠な基礎的な人体構造や機能について知識を修得する。							
■授業目的、到達目標							
授業目的：人体の構造と役割を理解する。							
到達目標：人体の構造について十分に理解し、運動器や内臓、神経などの構造と役割を説明できる。							
■授業方法							
講義（講義資料を事前に用意し持参すること）							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生学シリーズ／人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意							
1. 定期試験による評価を行う。							
2. 講義内容に関係のない私語や行動はやめること。 <u>ひどい場合は退出を命ずる。</u>							
3. 講義中の写真・動画撮影、講義資料を SNS 等へ投稿することを禁ずる。							
■実務経験							
現在病理学講座に所属しているが、元解剖学講座教室員（日本大学松戸歯学部）として勤務した経験があり、口腔解剖学実習、解剖学実習などの実務経験に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	解剖学総論（解剖学用語・方向用語）						
2	骨格系（骨格系概論・頭蓋骨）						
3	骨格系（体幹骨・四肢骨）						
4	筋 系（筋概論・頭頸部の筋）						
5	筋 系（体幹の筋・四肢の筋）						
6	消化器（消化管）						
7	消化器（付属消化腺）						
8	呼吸器・循環器（心臓）						
9	循環器（動脈・静脈系・リンパ系）						
10	泌尿・生殖器						
11	神経器（神経系概論・中枢神経）						
12	神経器（末梢神経）						
13	感覚器						
14	内分泌器						
15	定期試験、解答解説						

<div> <div>■科 目</div> <div>栄養代謝学</div> </div>	<div> <div>■講師名</div> <div>平石 奈月</div> </div>
<div> <div>Ⅱ部 1 学年</div> <div>後期</div> <div>15 コマ (1 コマ 90 分授業)</div> <div>総時間 30 時間</div> <div>講義 2 単位</div> </div>	
<div> <div>■学修概要</div> <p> 栄養代謝学には、生化学・口腔生化学・栄養学の 3 つの分野が含まれる。生化学分野では、私たちが日ごろ摂取している食物が体内でどのように変化して生命維持や健康実現に寄与しているのかを学ぶ。口腔生化学分野では、口腔の基礎およびう蝕予防に関与する食品や食品摂取方法を中心に学ぶ。栄養学分野では、食品が含む栄養素、国内の健康関連施策、ライフステージ別の栄養課題など、私たちの健康実現に関わる事項を幅広く学ぶ。 </p> </div>	
<div> <div>■授業目的、到達目標</div> <p> 健康実現のための食生活習慣について一人ひとりが関心をもち、自分自身の生涯を通じた健康づくりと QOL の高い人生を送るために役立つ知識と共に、歯科診療活動の一環としての栄養指導に必要な基礎知識の習得を目指す。 </p> </div>	
<div> <div>■授業方法</div> <div>講義形式</div> </div>	
<div> <div>■教科書（書籍名・出版社）</div> <p> 歯科衛生学シリーズ／生化学・口腔生化学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ／栄養学 医歯薬出版 新食品成分表 F O O D S 2025 年版 東京法令出版 </p> </div>	
<div> <div>■成績評価・講義上の注意</div> <p>小テストおよび学期末試験による総合評価</p> </div>	
<div> <div>■実務経験</div> <p> 管理栄養士としての国内外の食品規制に関する調査・研究、ならびに糖尿病療養指導士としての栄養指導による知識および経験に基づき、わかりやすく講義する。 </p> </div>	
<div>■授業計画（講義の流れ）</div>	
1	生化学分野：1 章 人体の構成要素
2	生化学分野：2 章 人体における化学反応
3	生化学分野：3 章 糖質、脂質、タンパク質の代謝
4	生化学分野：4 章 糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関連、5 章 遺伝子とタンパク質
5	生化学分野：6 章 生体における恒常性の維持
6	口腔生化学分野：1 章 歯と歯周組織の生化学、2 章 硬組織の生化学
7	口腔生化学分野：3 章 唾液の生化学、4 章 プラークの生化学
8	栄養学分野：1 章 栄養学と歯科衛生士
9	栄養学分野：2 章 栄養素の種類とはたらき
10	栄養学分野：3 章 栄養素の消化・吸収
11	栄養学分野：4 章 健康と栄養
12	栄養学分野：5 章 食事と食品
13	栄養学分野：6 章 ライフステージと栄養
14	栄養学分野：7 章 栄養ケアマネジメント
15	定期試験、解答解説

■科 目		生 理 学		■講師名		田村 宗明	
Ⅱ部1学年		中期		10コマ（1コマ90分授業）		総時間 20 時間	
						講義 1 単位	
<p>■学修概要：</p> <p>我々の身体は日々生命活動を営んでいる。生理学は、生命現象の仕組みを自然科学の方法を用いて解明する科学であり、生命現象の仕組みを明らかにするだけでなく、その合目的性を明らかにすることを目標にしている。</p>							
<p>■授業目的、到達目標：</p> <p>生理学の授業では、生体の個々の器官の機能を明らかにするとともに、器官相互の調和のとれた機能が維持されている機構について理解する。</p>							
<p>■授業方法</p> <p>講 義</p>							
<p>■教科書（書籍名・著者・出版社）</p> <p>歯科衛生学シリーズ／解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版</p> <p>歯科衛生学シリーズ／口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版</p>							
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>定期試験（80%）と受講態度（20%）により総合的に評価する。</p>							
<p>■実務経験：</p> <p>これまで 30 年間以上にわたり日本大学歯学部および日本大学歯学部附属歯科衛生士学校で研究と学生教育を行ってきている。また、本校では生理学・口腔生理学の他、微生物学・口腔微生物学や歯科英語の講義経験を有する。これらを通して歯科衛生士の立場から生理学および口腔生理学について、本教科で学ぶ内容がいかに歯科臨床の現場で活かされるかを感じ取れる場を提供したいと考えている。</p>							
■授業計画（講義の流れ）							
1	生理学総論，細胞の基本的生理機能（8/26） pp. 9～20						
2	運動Ⅰ 筋の構造と機能，運動ニューロン，筋電図（9/2） pp. 64～70, 80～83						
3	消化吸収（9/9） pp. 84～108						
4	循環Ⅰ 血管の構造と機能，体循環と肺循環，血液（9/16） pp. 109～121						
5	循環Ⅱ 心臓と心電図，循環系，リンパ系（9/30） pp. 121～154						
6	体性感覚，臓器感覚，特殊感覚，痛覚の特徴，分類（10/7） pp. 156～178						
7	情報伝達 総論，中枢神経系と末梢神経系（10/14） pp. 179～212						
8	呼吸、排泄，腎と尿（10/21） pp. 213～245						
9	内分泌、生殖、体温（10/21） pp. 246～278						
10	定期試験、解答解説（10/28）						

■科 目		口腔生理学		■講師名		田村 宗明			
Ⅱ部1学年		中期		8コマ（1コマ90分授業）		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要： 我々の身体は日々生命活動を営んでいる。口腔は消化器の入り口として、また呼吸器官，発語器官，感覚器官として多面的な働きをしている。この口腔の健康を保つための諸機能について，そのメカニズムを理解するために口腔生理学で口腔機能の情報伝達等について学ぶ。									
■授業目的、到達目標： 口腔生理学は口腔領域に特化した生理学であり，口腔感覚は情報の取得機構であり，取得した情報に対する出力は顎運動・舌運動などであることを理解する。									
■授業方法 講 義									
■教科書（書籍名・著者・出版社） 歯科衛生学シリーズ／解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ／口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意 定期試験（80%）と受講態度（20%）により総合的に評価する。									
■実務経験： これまで 30 年間以上にわたり日本大学歯学部および日本大学歯学部附属歯科衛生士学校で研究と学生教育を行ってきている。また，本校では生理学・口腔生理学の他，微生物学・口腔微生物学や歯科英語の講義経験を有する。これらを通して歯科衛生士の立場から生理学および口腔生理学について，本教科で学ぶ内容がいかに歯科臨床の現場で活かされるかを感じ取れる場を提供したいと考えている。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	口腔の感覚，味覚Ⅰ（8/26） pp. 192～212								
2	口腔の感覚，味覚Ⅱ（9/2） pp. 192～212								
3	咬合と咀嚼Ⅰ（9/9） pp. 213～229								
4	咬合と咀嚼Ⅱ（9/16） pp. 213～229								
5	吸啜，摂食嚥下（9/30） pp. 230～241								
6	口呼吸，発声，発音（10/7） pp. 242～259								
7	唾液腺の構造，支配神経，唾液の性状，成分（10/14） pp. 260～270								
8	定期試験、解答解説（10/28）								

■科 目			口腔解剖学	■講師名		中山 光子
Ⅱ部 1 学年	後期	15 コマ	(1 コマ 90 分授業)	総時間	30 時間	講義 2 単位
■学修概要						
歯科衛生活動をおこなうための頭頸部領域の専門的知識を理解し、臨床科目を理解するうえで必要な知識を修得する。						
■授業目的、到達目標						
授業目的：解剖学で勉強した知識を元に、頭頸部の詳しい構造を学習し歯科衛生士に必要な知識を得る。						
到達目標：歯の形態や、頭蓋骨の構造、咀嚼に関与する筋肉、神経の走行などを説明できる。						
■授業方法						
講義と歯牙模型の観察（講義資料を事前に用意し持参すること）						
■教科書（書籍名・出版社）						
歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版						
■成績評価・講義上の注意						
1. 定期試験による評価を行う。						
2. 講義内容に関係のない私語や行動などはやめること。 <u>必要に応じて退出を命じる。</u>						
3. 学習内容の理解度に応じて、講義の進行や使用する標本等を変更する。						
4. 講義中の写真・動画撮影、講義資料を SNS 等へ投稿することを禁ずる。						
■実務経験						
現在病理学講座に所属しているが、元解剖学講座教室員（日本大学松戸歯学部）として勤務した経験があり、口腔解剖学実習、解剖学実習などの実務経験に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。						
■授業計画（講義の流れ）						
1	歯の一般構造					
2	切歯の形態（講義と歯牙模型の観察）					
3	犬歯の形態（講義と歯牙模型の観察）					
4	小臼歯の形態（講義と歯牙模型の観察）					
5	大臼歯の形態（講義と歯牙模型の観察）					
6	頭蓋骨（全体像）					
7	頭蓋骨（脳頭蓋）					
8	頭蓋骨（顔面頭蓋）（口腔を構成する骨）					
9	表情筋・咀嚼筋・頸部の筋					
10	循環器（頭頸部の動脈系・静脈系・リンパ系）					
11	呼吸器系・消化器系					
12	神経系（中枢神経 1）					
13	神経系（中枢神経 2・脳神経 1）					
14	神経系（脳神経 2・頸神経）					
15	定期試験、解答解説					

■科 目		組織・発生学		■講師名		長坂 新			
Ⅱ部1学年		前期		8コマ（1コマ90分授業）		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要									
人体を構成する細胞や組織の「正常な形態的特徴・働き・成り立ち」について学ぶ。									
■授業目的、到達目標									
細胞や組織の構造、機能、形成について基本的な知識を習得し、臨床的な処置や治療の基礎を築くことを目標とする。									
■授業方法									
主に教科書や配布資料を使用して講義を行い、必要に応じて組織像や模式図をパソコンで示す。									
■教科書（書籍名・著者・出版社）									
歯科衛生学シリーズ／解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版									
歯科衛生学シリーズ／口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意									
定期試験や出席状況などを加味し総合的に評価する。									
他の科目とも関連する重要な基礎的知識を学ぶので、分からないことがあれば積極的に質問し疑問点を解消すること。授業内容の復習は必ず行うこと。									
■実務経験									
これまでに東京歯科大学で組織学の実習指導を担当し、現在は明海大学歯学部で組織学・発生学・解剖学の講義・実習指導を担当している。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	細胞と組織(1)								
2	細胞と組織(2)								
3	歯を構成する組織								
4	歯周組織								
5	ヒトの初期発生								
6	顎顔面の発生								
7	歯・歯周組織の発生								
8	定期試験、解答解説								

<div> <div>■科 目</div> <div>病理学・口腔病理学</div> </div>	<div> <div>■講師名</div> <div>岡田裕之、玉村 亮</div> </div>
<div> <div>Ⅱ部 1 学年</div> <div>後期</div> <div>15 コマ (1 コマ 90 分授業)</div> </div>	<div> <div>総時間 30 時間</div> <div>講義 2 単位</div> </div>
<div> <div>■学修概要</div> <p>病気の原因および身体に生じる変化について学ぶ。前半は総論として6大病変について、後半は口腔に発生する多種多様な疾患について学習する。</p> </div>	
<div> <div>■授業目的、到達目標</div> <p>病気の原因（病因）、発生機序（成りたち）、進展、転帰について理解する。</p> <p>病理学は基礎医学と臨床医学の境界に位置する学問であり、歯科衛生士として必要な知識を習得する。</p> </div>	
<div> <div>■授業方法</div> <p>パワーポイントスライドを用いた講義を行う。</p> </div>	
<div> <div>■教科書（書籍名・出版社）</div> <p>歯科衛生学シリーズ／病理学・口腔病理学 医歯薬出版</p> </div>	
<div> <div>■成績評価・講義上の注意</div> <p>定期試験（筆記試験）および授業態度から総合的な評価を行う。</p> <p>講義内容は広く多岐にわたるため、予習・復習が必要である。</p> </div>	
<div> <div>■実務経験</div> <p>歯学部口腔病理学講座教員として、講義（大学、看護学校、歯科衛生士学校等）、研究、また大学病院での病理診断業務に携わった経験があり、実務経験に基づいた講義を行う。</p> </div>	
<div> <div>■授業計画（講義の流れ）</div> </div>	
1	病因論、遺伝性疾患と先天異常
2	循環障害
3	代謝障害と退行性病変、増殖と修復
4	炎症
5	免疫応答異常
6	腫瘍
7	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物
8	う蝕
9	象牙質・歯髄複合体の病態
10	歯周組織の病態
11	口腔粘膜の病変
12	口腔領域の嚢胞と腫瘍
13	口腔癌、顎骨の病変
14	唾液腺の病変、口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化
15	定期試験、解答解説

■科 目 微生物学	■講師名 落合 邦康
II部1学年 前期 10コマ（1コマ90分授業） 総時間 20時間 講義 1単位	
■学修概要： 多くの死者をだし世界中を恐怖に陥れた新型コロナウイルス(COVID-19)感染は、世界経済にまで大きな影響を与えました。このような世界規模の感染症は、概ね百年ごとに繰り返し起こってきました。COVID-19のような外因性感染症は、原因微生物と感染経路がわかれば確実に防ぐことができます。しかし、感染・予防が最も困難なのは、誕生と同時に口腔や体に住みついた常在細菌による感染（内因性感染症）です。現在最も大きな問題となっている高齢者の死亡原因は、がんではなくこの内因性感染症なのです。	
■授業目的、到達目標： 医療従事者の一員・歯科衛生士として微生物学および免疫学を学ぶ理由を理解する。主な病原微生物の感染およびその発症機序を理解する。これらの知識を基に医療従事者が必要とする消毒・滅菌法および感染症防止法を理解する。また、免疫システムの重要性を理解し、その維持法を学ぶ。医科歯科連携における歯科衛生士の役割を理解し、種々の医療従事者との連携に必要な知識と技術を習得する。	
■授業方法： 講義および実習	
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／微生物学 医歯薬出版 （参考図書：改訂版 人は口から老い 口で逝く：生きるとは食べること 日本プランニングセンター出版）	
■成績評価・講義上の注意： 定期試験(約7割)、小テスト(約2割)、レポートおよび授業態度(約1割)により総合的に評価する。	
■実務経験： 日本大学松戸歯学部、日本大学歯学部、明海大学歯学部、千葉大学、米国アラバマ大学、ラオス医科大学など国内外の歯学部（4校）、医学部（2校）、衛生士専門学校（4校）、看護専門学校（2校）など医療系教育機関において研究・教育に従事。初期の研究テーマは、う蝕原因菌の確定および発症機序の解明。粘膜免疫による抗う蝕ワクチン開発プロジェクトに参加。その後、腸内細菌、口腔細菌による全身疾患発症機序の解明、予防法などの研究に従事し、その研究成果を世界に発信してきた。近年はマスコミを含め各方面からの要請に答え「歯周病と全身疾患」、「口腔ケアの重要性」に関する講演や出版など幅広く活動を行っている。	
■授業計画（講義の流れ）	
1	感染症概論（微生物の分類、構造、病原性因子、感染経路、感染と発症）
2	主な病原細菌1（グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌）
3	主な病原細菌2（グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌）
4	主な病原細菌3（マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア）
5	主な病原性ウイルス1（構造、性状、病原性ウイルス①）
6	主な病原性ウイルス2（病原性ウイルス②）、その他の病原微生物（真菌、原虫）
7	まとめ1（書き込み式学習ノート使用）
8	免疫1（感染防御機構、免疫の種類、体液性免疫、細胞性免疫）
9	免疫2（アレルギーとアナフィラキシー、ワクチン）
10	定期試験、解答解説

■科 目		口腔微生物学		■講師名		落合 邦康	
Ⅱ部1学年		中期		8コマ（1コマ90分授業）		総時間15時間 講義1単位	
■学修概要： 歯科医療の重要な役割は正常な口腔環境の維持と咬合機能回復です。国民的疾患・う蝕は、歯科医療関係者の努力により罹患者が大幅に減少し、歯の主な喪失原因は歯周病にシフトしました。また、歯周病はがん、認知症や循環器障害などさまざまな難治性全身疾患のリスクになることが解明されました。さらに、高齢者の最大の死亡原因の誤嚥性肺炎は口腔細菌が原因です。歯周病および口腔感染症の予防は単に歯科だけではなく、国民医療全体における重要な問題となりました。う蝕や歯周病、そして誤嚥性肺炎は、歯科衛生士による専門的口腔ケアにより確実に発症を減らすことができます。したがって、これからの歯科医療は、単に入れ歯を作るなどの従来の治療だけでなく、全身を視野に入れた口腔管理が極めて重要になります。さらに、医師や看護師などさまざまな医療従事者との医科歯科連携によるチーム医療の機会が増え、歯科衛生士の果たす役割はより一層重要になります。医療従事者としての歯科衛生士は、なにより感染症から身を守るため、微生物学の知識と感染防止法を習得することが必要になります。このような視点で講義を進めていきます。							
■授業目的、到達目標： 医療従事者・歯科衛生士として医学微生物学を学ぶ理由を理解する。主な病原微生物の感染およびその発症機序を理解する。これらの知識を基に医療従事者が必要とする消毒・滅菌法および感染症防止法を理解する。生命維持に重要な免疫システムを理解し、その基本的な維持法について学ぶ。医科歯科連携における歯科衛生士の役割を理解し、種々の医療従事者との連携に必要な知識と技術を習得する							
■授業方法： 講義および実習							
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／微生物学 医歯薬出版 （参考図書：改訂版 人は口から老い 口で逝く：生きるとは食べること 日本プランニングセンター出版）							
■成績評価・講義上の注意： 定期試験(約7割)、小テスト(約2割)、レポートおよび授業態度(約1割)により総合的に評価する。							
■実務経験： 日本大学松戸歯学部、日本大学歯学部、明海大学歯学部、千葉大学、米国アラバマ大学、ラオス医科大学など国内外の歯学部（4校）、医学部（2校）、衛生士専門学校（4校）、看護専門学校（2校）など医療系教育機関において研究・教育に従事。初期の研究テーマは、う蝕原因菌の確定および発症機序の解明。粘膜免疫による抗う蝕ワクチンの開発プロジェクトに参加。その後、腸内細菌、口腔細菌による全身疾患発症機序の解明、予防法などの研究に従事し、その研究成果を世界に発信してきた。近年はマスコミを含め各方面からの要請に答え「歯周病と全身疾患」、「口腔ケアの重要性」に関する講演や出版など幅広く活動を行っている。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	滅菌・消毒、院内感染症対策						
2	口腔微生物1（口腔細菌叢）				微生物実習1＊		
3	口腔微生物2（デンタルプラーク、う蝕①）				微生物実習2＊		
4	口腔微生物3（う蝕②、歯周病①）						
5	口腔微生物4（歯周病②、その他の口腔の感染症）						
6	口腔感染症と全身疾患①、化学療法						
7	口腔感染症と全身疾患②、口腔微生物まとめ						
8	定期試験、解答解説						

■科 目		薬理学		■講師名		池田 利恵	
Ⅱ部 1 学年		後期		15 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間	
						講義 2 単位	
<p>■学修概要</p> <p>歯科衛生士に必要な薬理学的知識、すなわち治療や予防に使用する薬物の種類、作用、作用機序および副作用などに関する基本的知識を学ぶ。また、薬物に関する法律を学び、薬物の取り扱いを理解する。</p>							
<p>■授業目的、到達目標</p> <p>歯科衛生士として歯科臨床業務に従事する際に必要となる薬理学的知識を身につけるとともに、薬物に関する法律を知り、薬物の取り扱いを理解することを目的とする。</p>							
<p>■授業方法</p> <p>講義を主体として行う。</p>							
<p>■教科書（書籍名・出版社）</p> <p>歯科衛生学シリーズ／第 2 版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 医歯薬出版</p>							
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>定期試験の結果と授業への参加態度を総合して評価とする。</p>							
<p>■実務経験</p> <p>1984 年 3 月北里大学薬学部薬学科卒業。1984 年 4 月より現在に至るまで、日本歯科大学生命歯学部解剖学第 2 講座にて「組織学」授業を担当している。2008 年 4 月より現在に至るまで、日本歯科大学東京短期大学において「組織発生学」「薬理学」などの科目を担当している。</p>							
■授業計画（講義の流れ）							
1	薬物の定義と薬理作用						
2	薬物の用量と薬理作用の機序						
3	薬物動態と薬物の適用方法						
4	薬物の作用に影響を与える要因と副作用、医薬品を適用する際の注意						
5	薬物に関連する法律と薬物の取り扱い						
6	末梢神経系に作用する薬物						
7	中枢神経系に作用する薬物						
8	循環器系・呼吸器系・消化器系に作用する薬物						
9	血液に作用する薬物						
10	免疫系に作用する薬物、抗悪性腫瘍薬および代謝性疾患治療薬						
11	抗炎症薬						
12	痛みと薬物						
13	抗感染症薬と消毒薬						
14	歯科疾患に用いる薬物、和漢薬						
15	定期試験、解答解説						

■科 目		口腔衛生学Ⅰ		■講師名		田中 入	
Ⅰ部1学年		前期		15コマ（1コマ90分授業）		総時間 30時間 講義 2単位	
<p>■学修概要</p> <p>近年、WHO（世界保健機関）および厚生労働省は健康に関する具体的な数値目標を掲げている。それはつまり疾病の有無や程度ではなく、予防管理に重点を置いている事にほかならない。近代医学においては予防医学がその主流となっており、口腔疾患を防ぐ思考の確立は臨床における必須要件である。</p>							
<p>■授業目的、到達目標</p> <p>衛生学・公衆衛生学を基とする口腔衛生学の内容と目的を理解する。すなわち歯科領域における口腔の健康像と疾病像の動態を正しく理解し、病因探索、要因除去および健康管理を行う技量を会得する。また予防歯科臨床に重要な事項を疾病別に理解・修得して実践に生かせる知識を得る。さらには直近の課題となる感染症対策の実践方法もその対象となる細菌・ウィルスの特性を踏まえて習得する。</p>							
<p>■授業方法</p> <p>講義、板書に加えてスライド、動画などを併用して行う。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。（ただし不正解でも減点は実施しない）</p>							
<p>■教科書（書籍名・出版社）</p> <p>歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 医歯薬出版</p>							
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>中間テスト（論述筆記形式）、出席日数、成書朗読、受講態度（私語、居眠りなど）および質疑応答などから総合的に評価する。なお筆記試験の採点には相対指数を採用する。</p>							
<p>■実務経験</p> <p>歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、大学病院の口腔保健科に11年在籍した後、もその概念に則した歯科臨床を20年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医を取得しており、明海大学歯学部客員講師、埼玉県歯科医師会地域保健部副部長および朝霞地区歯科医師会地域保健担当理事を10年以上務めている。</p>							
■授業計画（講義の流れ）							
1	口腔衛生学の概要、歯科疾病予防の概念						
2	う蝕の疫学的特性（1）						
3	同 上 （2）						
4	う蝕の発生に関わる要因（1）						
5	同 上 （2）						
6	う蝕活動性						
7	う蝕予防法とその種類						
8	フッ化物の性状・代謝、う蝕予防機序						
9	フッ化物の慢性毒性および急性毒性（1）						
10	同 上 （2）						
11	フッ化物応用法（全身応用法）						
12	フッ化物応用法（局所応用法）（1）						
13	同 上 （2）						

14	同 上 (3)
15	定期試験、解答解説定期試験、解答解説

■科 目		口腔衛生学Ⅱ		■講師名		田中 入			
I 部 1 学年		中期		15 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要 近年、WHO（世界保健機関）および厚生労働省は健康に関する具体的な数値目標を掲げている。それはつまり疾病の有無や程度ではなく、予防管理に重点を置いている事にほかならない。近代医学においては予防医学がその主流となっており、口腔疾患を防ぐ思考の確立は臨床における必須要件である。									
■授業目的、到達目標 衛生学・公衆衛生学を基とする口腔衛生学の内容と目的を理解する。口腔衛生学Ⅱでは地域保健をその中心として、地域共生社会に貢献できる歯科医療従事者の育成を目指す。すなわち地域ごと、ライフステージごとに必要とされる歯科保健の知識を会得し、少子化社会、学校保健、成人・産業保健および超高齢化社会で活躍できる歯科衛生士となることを目指す。またグローバルな活動为目标とする者に対する後援を実施する。									
■授業方法 講義、板書に加えてスライド、動画などを併用して行う。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。（ただし不正解でも減点は実施しない）									
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意 期末テスト（論述筆記形式）、出席日数、成書朗読、受講態度（私語、居眠りなど）および質疑応答などから総合的に評価する。なお筆記試験の採点には相対指数を採用する。									
■実務経験 歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、大学病院の口腔保健科に 11 年在籍した後もその概念に則した歯科臨床を 20 年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医を取得しており、明海大学歯学部客員講師、埼玉県歯科医師会地域保健部副部長および朝霞地区歯科医師会地域保健担当理事を 10 年以上務めている。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	歯周疾患の疫学的特性								
2	その他の歯科疾患の疫学的特性について								
3	ライフステージごとの口腔保健管理								
4	地域歯科保健活動の概要								
5	歯科保健における行政の役割および 8020 運動、噛みんぐ 30 など								
6	健康増進対策の歴史と健康日本 21（第 3 次）								
7	集団健診と事後措置								
8	母子歯科保健対策 出産前から乳幼児期まで								
9	学校歯科保健対策 学童期における歯科保健								
10	産業歯科保健対策 生産年齢における糖尿病連携、栄養関連など								
11	成人歯科保健対策 生活習慣病対策、行動変容など								
12	高齢者歯科保健対策 前期・後期高齢者の特異的な歯科保健								

13	2025 年問題と地域包括ケアシステム
14	障害者歯科保健対策、精神衛生、社会福祉
15	定期試験、解答解説

■科 目		衛生学・公衆衛生学		■講師名		大島 克郎	
Ⅱ部 1 学年		中期 1 5 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要							
人の健康に関連する社会環境、自然環境および健康寿命の延伸と健康格差の解消のための地域保健の在り方を学ぶ							
■授業目的、到達目標							
健康の定義と疾病予防の概念を修得するとともに、社会環境と自然環境の実態を理解するほか、地域保健の概念と実際を理解する。							
■授業方法							
講義を主体として行う。							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生学シリーズ／保健生態学 医歯薬出版							
＜参考図書＞							
国民衛生の動向（厚生指標 増刊） 厚生労働統計協会							
■成績評価・講義上の注意							
記述式、選択肢式の期末テストにて評価							
■実務経験							
2003 年日本歯科大学大学院歯学研究科修了。日本歯科大学附属病院、厚生労働省などの勤務を経て、2015 年日本歯科大学東京短期大学・教授。現在は、日本歯科大学東京短期大学において、衛生学、衛生行政などの科目を、日本歯科大学生命歯学部において衛生学などの科目を担当している。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	総論：健康の概念						
2	疫学						
3	人口						
4	環境衛生						
5	感染症						
6	食品と健康						
7	地域保健・公衆衛生①						
8	地域保健・公衆衛生②						
9	母子保健						
10	学校保健						
11	産業保健						
12	成人・高齢者保健、精神保健						
13	災害時歯科保健・国際保健						
14	まとめ						
15	定期試験、解答解説						

<div> <div>■科 目</div> <div>歯科衛生士概論</div> </div>	<div> <div>■講師名</div> <div>清水 秀子</div> </div>
<div> <div>Ⅱ部 1 学年</div> <div>前期</div> <div>1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)</div> <div>総時間 30 時間</div> <div>講義 2 単位</div> </div>	
<div> <div>■学習概要</div> <p>全身の健康維持のため口腔の健康の重要性が広く認知される中での歯科衛生学の全体像を理解する。 歯科衛生士の役割と法的位置づけ、専門職としての自覚・心構え、医療倫理を理解する。</p> </div>	
<div> <div>■授業目的、到達目標</div> <p>倫理的視点かつ科学的な裏づけをもって歯科衛生活動を行うために必要な専門知識、態度を身につける。 また歯科衛生士として保健、医療、福祉に関わる意義を理解する。</p> </div>	
<div> <div>■授業方法</div> <p>パワーポイントを使用しての講義、グループワーク</p> </div>	
<div> <div>■教科書（書籍名・出版社）</div> <p>歯科衛生学シリーズ／歯科衛生学総論 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ／保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版</p> </div>	
<div> <div>■成績評価・講義上の注意</div> <p>定期試験、出席状況、提出物、小テストの総合評価</p> </div>	
<div> <div>■実務経験</div> <p>歯科医院での歯科衛生士業務経験と、歯科医療機器メーカーでの勤務経験を持つ。 歯科衛生士として必要な知識と心構えを身につけることを目指す。</p> </div>	
<div> <div>■授業計画（講義の流れ）</div> </div>	
1	歯科衛生士の歴史
2	歯科衛生学とは
3	チーム医療における歯科衛生活動
4	歯科衛生の考え方、科学的思考
5	歯科衛生過程
6	科学的思考の活用
7	歯科衛生士法
8	歯科衛生士の試験・免許
9	関連法規
10	安全管理①
11	安全管理②
12	医療倫理①
13	医療倫理②
14	歯科衛生士の活動と組織
15	定期試験、解答解説

■科 目		歯科臨床概論		■講師名		岩脇 淳志	
Ⅱ部 1 学年		中期 8 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要							
歯科衛生士として歯科治療に携わるにあたり、歯科治療の概要を習得する。							
■授業目的、到達目標							
歯科診療の概略を理解すること。							
■授業方法							
教科書を主体に講義を行い、補足資料を適宜アップする。							
■教科書（書籍名・出版社）							
新・歯科衛生士教育マニュアル／歯科臨床の基礎と概論 クインテッセンス株式会社							
■成績評価・講義上の注意							
定期試験、出席状況などによる総合評価							
■実務経験							
9 年以上明海大学で歯科医師として専門的業務に従事							
■授業計画（講義の流れ）							
1	歯科医療 総論①（歯科医療に関わる職種、歯科診療所）						
2	歯科医療 総論②（医の原則、医療安全、医療面接）						
3	歯科保存治療の流れ						
4	歯周治療の流れ						
5	歯科補綴治療（クラウン・ブリッジ治療、有床義歯治療）の流れ						
6	口腔外科治療の流れ						
7	高齢者・小児の歯科治療、矯正治療の流れ						
8	定期試験、解答解説						

■科 目			保存修復学	■講師名		保坂 誠
Ⅱ部 1 学年	後期	10 コマ	(1 コマ 90 分授業)	総時間	20 時間	講義 1 単位
■学修概要						
保存修復学の概要を学び、歯牙硬組織に由来する疾患の成立機序や、う蝕などにより欠損した歯牙硬組織の修復（治療）方法について学習する。						
■授業目的、到達目標						
保存修復学における歯牙硬組織疾患の診査・診断・治療の手順と歯科衛生士の役割について修得する。						
■授業方法						
講義						
■教科書（書籍名・出版社）						
歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版						
■成績評価・講義上の注意						
定期試験、出席率、授業態度の総合評価						
■実務経験						
歯科大学保存修復学講座で臨床、教育を行った後、歯科衛生士校で教育を長年にわたり担当してきた。また、臨床経験を活かし歯科臨床研修医の教育・指導に携わっている。						
■授業計画（講義の流れ）						
1	保存修復の概要、硬組織疾患					
2	窩洞と保存修復治療					
3	保存修復治療の準備					
4	コンポジットレジン修復（1）					
5	コンポジットレジン修復（2）					
6	セメント修復、歯の漂白法					
7	間接法修復（1）メタルインレー修復					
8	間接法修復（2）セラミック/ハイブリッドセラミックインレー修復、CAD/CAM インレー修復					
9	ベニア修復、合着材および接着材、アマルガム修復、補修修復、歯科衛生士の役割、まとめ					
10	定期試験、解答解説					

■科 目		歯科予防処置Ⅰ		■講師名		池澤 陽子（芦 祐子）	
Ⅱ部1学年		前期		15コマ（1コマ90分授業）		総時間 30 時間 講義 2 単位	
■学修概要 歯科疾患の予防や口腔管理に対する知識や技術、医療従事者としての安全管理や心構え等を修得する。							
■授業目的、到達目標 歯周組織を理解し、歯周疾患の予防に必要な予防的歯石除去法の知識、技術、態度を習得する。							
■授業方法 講義・実習							
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意 総合評価（実技・実技試験・期末試験・課題提出・出席状況・授業態度を考慮する） 実習においては行動目標の到達状況により補習を行う。							
■実務経験 歯科臨床での実務経験と歯科衛生士学校において専任教員として歯科予防処置を主体に担当してきた。 また、歯科衛生教育学会に所属し認定を取得している。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	【講義】使用器具の種類						
2	【講義】器具の操作方法（把持・固定）						
3	【机上実習】器具の操作方法（把持・固定）						
4	【ファントム実習】器具の操作方法（ファントム・ミラー）						
5	【ファントム実習】シックルスケーラー上顎前歯部						
6	【ファントム実習】シックルスケーラー下顎前歯部						
7	【ファントム実習】シックルスケーラー下顎臼歯部						
8	【ファントム実習】シックルスケーラー上顎臼歯部						
9	【ファントム実習】シックルスケーラーまとめ						
10	【ファントム実習】シックルスケーラー評価						
11	【ファントム実習】シックルスケーラー評価						
12	【講義】シックルスケーラーシャープニング						
13	【机上実習】シックルスケーラーシャープニング						
14	【講義】口腔内検査						
15	定期試験、解答解説						

<div> <div>■科 目</div> <div>歯科予防処置Ⅱ</div> </div>	<div> <div>■講師名</div> <div>池澤 陽子（芦 祐子）</div> </div>
<div> <div>Ⅱ部1学年</div> <div>中後期</div> <div>30コマ（1コマ90分授業）</div> </div>	<div> <div>総時間 60 時間</div> <div>実習 2 単位</div> </div>
<div> <div>■学修概要</div> <div>歯科疾患の予防や口腔管理に対する知識や技術、医療従事者としての安全管理や心構え等を修得する。</div> </div>	
<div> <div>■授業目的、到達目標</div> <div>歯周組織を理解し、歯周疾患の予防に必要な予防的歯石除去法の知識、技術、態度を習得する。</div> </div>	
<div> <div>■授業方法</div> <div>講義・実習</div> </div>	
<div> <div>■教科書（書籍名・出版社）</div> <div>歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版</div> </div>	
<div> <div>■成績評価・講義上の注意</div> <div>総合評価（実技・実技試験・期末試験・課題提出・出席状況・授業態度を考慮する）</div> <div>実習においては行動目標の到達状況により補習を行う。</div> </div>	
<div> <div>■実務経験</div> <div>歯科臨床での実務経験と歯科衛生士学校において専任教員として歯科予防処置を主体に担当してきた。また、歯科衛生教育学会に所属し認定を取得している。</div> </div>	
<div>■授業計画（講義の流れ）</div>	
1	【講義】緊急時の対応・相互実習ガイダンス
2	【ファントム実習】口腔内検査・触診・シクルスケーラーでのスケーリング
3	【相互実習】口腔内検査
4	【相互実習】口腔内検査
5	【相互実習】触診・シクルスケーラーでのスケーリング（上下顎前歯部）
6	【相互実習】触診・シクルスケーラーでのスケーリング（上下顎前歯部）
7	【相互実習】触診・シクルスケーラーでのスケーリング（下顎臼歯部）
8	【相互実習】触診・シクルスケーラーでのスケーリング（下顎臼歯部）
9	【相互実習】触診・シクルスケーラーでのスケーリング（上顎臼歯部）
10	【相互実習】触診・シクルスケーラーでのスケーリング（上顎臼歯部）
11	【講義】パワースケーラー
12	【講義】歯面研磨・歯面清掃
13	【ファントム実習】超音波スケーラー・歯面研磨
14	【ファントム実習】超音波スケーラー・歯面研磨
15	【相互実習】超音波スケーラー・歯面研磨
16	【相互実習】超音波スケーラー・歯面研磨
17	【講義】キュレットスケーラー（机上実習まで）
18	【講義】プロービング（机上実習まで）
19	【ファントム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（前歯部）
20	【ファントム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（下顎臼歯部）
21	【ファントム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（上顎臼歯部）
22	【ファントム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング復習

23	【ファントム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング評価
24	【ファントム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング評価
25	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（下顎）
26	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（下顎）
27	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（上顎）
28	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（上顎）
29	【講義・机上実習】キュレットスケーラーシャープニング・まとめ
30	定期試験、解答解説

■科 目		歯科保健指導Ⅰ		■講師名		藤田 幸子	
Ⅱ部1学年		前・中期		30コマ（1コマ90分授業）		総時間 60時間	
						講義 4単位	
■学修概要 1. 歯科保健指導に必要な基本的知識、技術および態度を修得する。 2. 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯、口腔の健康を維持・増進するためにプロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの知識、技術および態度を修得する。							
■授業目的、到達目標 1. 歯科保健指導の概要が説明できる。 2. 歯科衛生過程の概要を理解する。 3. 食生活指導や禁煙指導の方法が説明できる。 4. 口腔の健康維持のための基本的知識や技術を習得し、対象ごとの口腔に応用できるスキルを身につける。							
■授業方法 講義・演習・実習							
■教科書（書籍名・著者・出版社） 最新歯科衛生士教本／歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意 総合評価（筆記試験、出欠席、授業態度、実習態度、レポート）							
■実務経験 歯科衛生士として歯科医院、歯科衛生士学校の専任教員。介護支援専門員として高齢者施設での勤務経験を持つ。その経験を基に、様々な場面において根拠を持って歯科保健指導ができるよう講義、実習を行いたいと考えている。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	歯科保健指導の概要 総説						
2	歯科保健指導の基礎						
3	歯科衛生アセスメント①						
4	歯科衛生アセスメント②						
5	歯科衛生アセスメント③						
6	口腔衛生管理に関わる指導						
7	口腔衛生管理に関わる指導①（歯ブラシ）						
8	口腔衛生管理に関わる指導②（ブラッシング法①）						
9	口腔衛生管理に関わる指導③（ブラッシング法②）						
10	口腔衛生管理に関わる指導④（歯磨剤・洗口液・洗口剤）						
11	口腔衛生管理に関わる指導⑤（その他の清掃方法）						

12	食生活の指導
13	歯科衛生過程の基礎
14	まとめ
15	中間試験、解説
16	ライフステージに対応した歯科衛生介入の概要
17	ライフステージに対応した歯科衛生介入①（妊産婦期）
18	ライフステージに対応した歯科衛生介入②（乳児期）
19	ライフステージに対応した歯科衛生介入③（幼児期）
20	ライフステージに対応した歯科衛生介入④（学齢期）
21	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤（思春期・青年期）
22	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥（成人期）
23	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦（高齢期）
24	配慮を要する者への歯科衛生介入①（要介護高齢者）
25	配慮を要する者への歯科衛生介入②（障害児者）
26	配慮を要する者への歯科衛生介入③（大規模災害被災者）
27	集団を対象とする歯科保健指導の概要
28	集団を対象とする歯科保健指導①
29	集団を対象とする歯科保健指導②
30	定期試験、解説

■科 目		歯科診療補助Ⅰ		■講師名		猪島恵美子			
Ⅱ部1学年		中期		15コマ（1コマ90分授業）		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要									
歯科診療の補助を行える歯科衛生士になるために必要な基本知識をつけ、医療人としての心構えを理解し、実習を行うことで技能と態度を修得する。									
■授業目的、到達目標									
・ 歯科衛生士が行う歯科診療補助の概念を説明できる									
・ 歯科衛生士として必要な診療室の安全管理を説明、実践できる									
・ 歯科医療における衛生管理ができる									
・ 歯科診療における共同動作を実践できる									
■授業方法									
講義、実習									
■教科書（書籍名・著者・出版社）									
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版									
歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意									
授業態度、実習態度、出席状況、提出物、定期試験の総合評価									
■実務経験									
一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当を行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、歯科衛生教育学会、歯科衛生学会に所属している。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	歯科診療補助の概要（歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけ、診療補助業務と他の医療職種）								
2	医療安全（歯科医療における医療安全と対策）								
3	感染予防①（歯科医療における感染症の概念）								
4	感染予防②（歯科医療における感染予防対策、手指衛生、個人防護具）								
5	感染予防③（滅菌消毒、医療廃棄物）								
6	衛生材料の作製（衛生材料の作製方法）								
7	歯科診療における基礎知識（歯科診療室、歯科用ユニット）								
8	共同動作の概念（ポジショニング、ライティング、患者誘導）								
9	共同動作ファントム実習①								
10	共同動作ファントム実習②								
11	共同動作相互実習①								
12	共同動作相互実習②								
13	共同動作相互実習③								
14	共同動作相互実習④								
15	定期試験 解答解説								

<div> <div>■科 目</div> <div>歯科診療補助Ⅱ</div> </div>	<div> <div>■講師名</div> <div>猪島恵美子</div> </div>
<div> <div>Ⅱ部1学年</div> <div>後期</div> <div>15コマ（1コマ90分授業）</div> <div>総時間 30 時間</div> <div>実習 1 単位</div> </div>	
<div> <div>■学修概要</div> <div> 歯科診療の補助を行える歯科衛生士になるために必要な基本知識をつけ、医療人としての心構えを理解し、材料の取り扱い・直接対面行為を含む実習を行うことで技能と態度を修得する。 </div> </div>	
<div> <div>■授業目的、到達目標</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科材料の取扱いができる ・ 対面直接行為を含めた歯科診療の補助を行うことができる </div> </div>	
<div> <div>■授業方法</div> <div>講義 実習</div> </div>	
<div> <div>■教科書（書籍名・著者・出版社）</div> <div> 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「保存修復・歯内療法」 医歯薬出版 </div> </div>	
<div> <div>■成績評価・講義上の注意</div> <div>授業態度、実習態度、出席状況、提出物、定期試験の総合評価</div> </div>	
<div> <div>■実務経験</div> <div> 一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当も行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、歯科衛生教育学会、歯科衛生学会に所属している。 </div> </div>	
<div>■授業計画（講義の流れ）</div>	
1	印象材①（印象材の基礎知識）
2	印象材②（アルジネート印象材）
3	印象材③（寒天印象材、その他の印象材）
4	模型材①（歯科用石膏）
5	印象材④（スタディモデル作製）
6	模型材②（スタディモデル作製）
7	合着材①（合着材・接着材の基礎知識）
8	合着材②（各合着材の取り扱い）
9	合着材③（接着材の取り扱い）
10	仮封材（仮封材の取り扱い）
11	対面直接行為①（隔壁法、歯間分離、歯肉圧排）
12	対面直接行為②（ラバーダム防湿）
13	対面直接行為③（ラバーダム防湿）
14	対面直接行為④（ラバーダム防湿）
15	定期試験 解答解説

■科 目		歯科材料学Ⅰ	■講師名	青柳 有祐
Ⅱ部1学年	後期	8コマ（1コマ90分授業）	総時間 12時間	講義 2単位
■学修概要 歯科診療に使用する歯科材料のそれぞれの特性・用途およびその取扱いについて、 歯科衛生士としての必要な知識の習得を目的とする。				
■授業目的、到達目標 歯科医療従事者として必要な歯科材料の取り扱いとその基礎知識を理解する。 歯科材料の取り扱い説明書の内容を理解する知識を得る。 診療補助の場での確かな作業・行動と歯科材料の取り扱いを習得する。				
■授業方法 講義： 教科書，クラスルームでのウェブ資料配布，PCにより解説を行う。				
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／歯科材料 医歯薬出版				
■成績評価・講義上の注意 中間試験，定期試験・追再試験の成績、小テスト，出欠状況および講義態度を評価対象とし， 総合判断を行い評価とする。				
■実務経験 日本歯科大学歯科理工学講座所属の歯科医師（非常勤講師）で歯科理工学の教育経験は10年以上であり臨床及び大学での経験を基に材料の取り扱いについて理解を深めること目標とする。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	歯科材料と科学			
2	歯科材料の物性、機械的性質等、基礎知識について学ぶ			
3	印象材の基礎			
4	性質と物性、操作法について学ぶ			
5	歯科用模型材の基礎、性質と物性、操作法について学ぶ			
6	歯科用セメントの基礎、性質と物性、操作法について学ぶ			
7	接着剤・合着材について学ぶ			
8	臨床関連材料について学ぶ			
9	定期試験			

<div> <div>■科 目</div> <div>総合講座Ⅰ</div> </div>	<div> <div>■講師名</div> <div>清水 秀子（池澤 陽子）</div> </div>																														
<div> <div>Ⅱ部 1 学年</div> <div>通年</div> <div>15 コマ（1 コマ 90 分授業）</div> </div>	<div> <div>総時間 30 時間</div> <div>講義・演習 2 単位</div> </div>																														
<div> <div>■学修概要</div> <p>日本ウェルネス歯科衛生専門学校で学び研究することの意義について考えると共に、高校までの受動的な学びとは全く異なる学術研究の作法を習得させる。この授業科目は、専門教育の前段となる基礎教育だけではなく、社会人として学修することの意義やその在り方について理解し、育成することをねらう。</p> </div>																															
<div> <div>■授業目的、到達目標</div> <p>日本ウェルネス歯科衛生専門学校での 3 年間の学びを効果的に行うために、授業・実習・演習において共通して求められる心構えおよび学修技法の基本を身につける。「学び」とはどういうことかを仲間と共に考え、卒業後も学び続ける力をつける。</p> </div>																															
<div> <div>■授業方法</div> <p>講義・演習</p> </div>																															
<div> <div>■教科書（書籍名・著者・出版社）</div> <p> 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第 2 版，保健生態学， 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学／医歯薬出版 歯科衛生士書き込み式学習ノート ①専門基礎科目編／医歯薬出版 ②社会歯科系科目編／医歯薬出版 </p> </div>																															
<div> <div>■成績評価・講義上の注意</div> <p>成績評価は、出席状況と講義中の態度ならびに課題，小テストを総合評価する。</p> <p>講義上の注意は、私語を慎み、講義に積極的に参加する。</p> </div>																															
<div> <div>■実務経験</div> <p> 歯科医院での歯科衛生士業務経験と、歯科医療機器メーカーでの勤務経験を持つ。 歯科衛生士として必要な知識と心構えを身につけることを目指す。 </p> </div>																															
<div> <div>■授業計画（講義の流れ）</div> <table> <tr><td>1</td><td>歯科衛生業務に関する基礎知識①（歯科予防と歯科保健）</td></tr> <tr><td>2</td><td>歯科衛生業務に関する基礎知識②（口腔の基礎知識①口腔の構造）</td></tr> <tr><td>3</td><td>歯科衛生業務に関する基礎知識③（口腔の基礎知識②口腔の機能）</td></tr> <tr><td>4</td><td>歯科衛生業務に関する基礎知識④（口腔内の付着物・沈着物）</td></tr> <tr><td>5</td><td>歯科衛生業務に関する基礎知識⑤（う蝕と歯周病）</td></tr> <tr><td>6</td><td>基礎学力をつける①</td></tr> <tr><td>7</td><td>基礎学力をつける②</td></tr> <tr><td>8</td><td>基礎学力をつける③</td></tr> <tr><td>9</td><td>基礎学力をつける④</td></tr> <tr><td>10</td><td>基礎学力をつける⑤</td></tr> <tr><td>11</td><td>基礎学力をつける⑥</td></tr> <tr><td>12</td><td>基礎学力をつける⑦</td></tr> <tr><td>13</td><td>基礎学力をつける⑧</td></tr> <tr><td>14</td><td>基礎学力をつける⑨</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr> </table> </div>		1	歯科衛生業務に関する基礎知識①（歯科予防と歯科保健）	2	歯科衛生業務に関する基礎知識②（口腔の基礎知識①口腔の構造）	3	歯科衛生業務に関する基礎知識③（口腔の基礎知識②口腔の機能）	4	歯科衛生業務に関する基礎知識④（口腔内の付着物・沈着物）	5	歯科衛生業務に関する基礎知識⑤（う蝕と歯周病）	6	基礎学力をつける①	7	基礎学力をつける②	8	基礎学力をつける③	9	基礎学力をつける④	10	基礎学力をつける⑤	11	基礎学力をつける⑥	12	基礎学力をつける⑦	13	基礎学力をつける⑧	14	基礎学力をつける⑨	15	まとめ
1	歯科衛生業務に関する基礎知識①（歯科予防と歯科保健）																														
2	歯科衛生業務に関する基礎知識②（口腔の基礎知識①口腔の構造）																														
3	歯科衛生業務に関する基礎知識③（口腔の基礎知識②口腔の機能）																														
4	歯科衛生業務に関する基礎知識④（口腔内の付着物・沈着物）																														
5	歯科衛生業務に関する基礎知識⑤（う蝕と歯周病）																														
6	基礎学力をつける①																														
7	基礎学力をつける②																														
8	基礎学力をつける③																														
9	基礎学力をつける④																														
10	基礎学力をつける⑤																														
11	基礎学力をつける⑥																														
12	基礎学力をつける⑦																														
13	基礎学力をつける⑧																														
14	基礎学力をつける⑨																														
15	まとめ																														